



## ■ 巻頭言

聖路加看護学会 理事長 亀井智子

2021 年は第 3 波の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大が続く不安の中で幕を開けました。会員に皆様におかれましては、看護の実践・教育・研究など各々の現場において、休む間もなくご活躍のことと拝察いたします。

COVID-19 による”人類の生活への脅かし”が始まってから 1 年があっという間に過ぎました。この 1 年、聖路加看護学会もさまざまな変化を経験してきました。

2020 年度の理事会をはじめ委員会活動やセミナー、総会は、全てオンラインでの開催となりました。毎年 9 月に開催してきた学術大会は今月 20 日から初のオンライン開催となります。”with 感染症”時代を生きる上で、インターネットのありがたみを感じつつ、テクノロジーを駆使した”New normal”な生活へと、1 年の間に凄まじい変化を経験しています。聖路加看護学会として、看護実践の学術への探求を止めることなく、テクノロジーの制約の中でも質を維持した最大の performance を行うことに日々注力しています。

すべての会員を対象として、2020 年 6 月に編集委員会が「学会誌刊行に関するアンケート」を行いました。回答にご協力いただき、ありがとうございました。分析結果から、冊子体による学会誌の刊行に変え、今後は電子媒体によるタイムリーな刊行を行うことを理事会で決定しました。現在、総会でご審議いただくための準備を進めています。2021 年 1 月末に学会誌 24 巻 1・2 号を刊行し、そこでは「COVID-19 と看護実践」を特集し、コロナ禍において会員が各々の現場でどのような取り組みをしたか、ご報告いただきました。冊子体は残念ながらこの巻をもって終了となりますが、創刊以来、先人の様々な思いが込められた学会誌ですので、今後も多様な論文を募集し、掲載していく所存です。皆様からのご投稿をよろしくお願いいたします。

また、聖路加看護学会では厚生労働省の要請に応じて COVID-19 に関する保健所支援に協力してまいりました。同省から謝意を受けておりますことを皆様にお伝えしたいと思います。引き続き要請を受けていますため、今後ともご協力をお願いいたします。

しばらくの間は、COVID-19 の国内外の動向を注視しつつ、本学会としてなすべきことを粛々とすすめます。看護実践を向上する学会スピリットと会員中心の学会のあり方をさらに考えていきます。会員の皆様からの率直なご意見もお待ちしております。

最後になりましたが、COVID-19 に関するケアに直接的・間接的に携わるすべての方々とそのご家族に敬意を表し、ご自身の健康保持にも留意されますことをご祈念申し上げます。



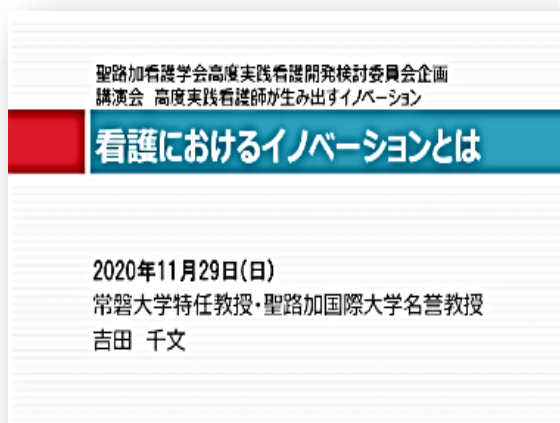
## ■オンライン講演会「高度実践看護師が生み出すイノベーション」のご報告

高度実践看護開発検討会委員 中島千春

2020年11月29日に、聖路加看護学会 高度実践開発委員会主催の講演会「高度実践看護師が生み出すイノベーション」を開催しました。コロナ渦でもあることから、初めての「オンライン講演会」でしたが、152名の皆さまのご参加がありました。

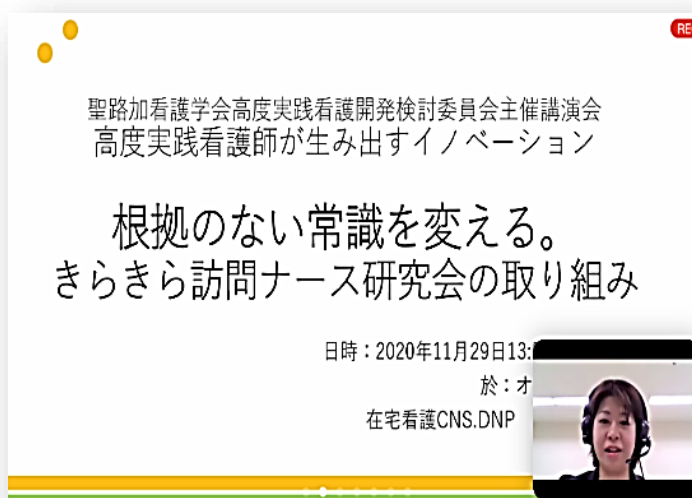
最初に、聖路加国際大学名誉教授 吉田千文先生より“看護におけるイノベーションとは”のテーマでご講演頂きました。社会・経済社会といった広義の視点から捉える「イノベーション innovation とは、新しいアイデアの創造から、その採用、実装、普及を含むいくつかのステップからなるプロセスである。」そして、「個人、その他の単位によって新しいと知覚されたアイデア・習慣・対象物である。」また、「イノベーションには、“持続的イノベーションと破壊的イノベーション”があり、それぞれのに特徴を合わせ持つ。」など、イノベーションの理論を分かりやすくお話頂きました。また、“看護におけるイノベーション”として、「根拠に基づく看護が重要な視点であり、それには、いままで行ってきた看護を、根拠に基づいて中止することもイノベーションである。」「臨床に看護研究の成果を取り入れる。新しい技術も取り入れ、それにより生じる技術の見直しには、行動変革の必要性が重要である。」等、ご講演頂きました。参加者からは「イノベーションの基本理論とプロセスが豊富な事例を用いながらの説明でわかりやすかった。」「看護管理の具体的な事例を示され勉強になった。」とのフィードバックをいただきました。

(次ページへ続く)



講演②として、東京ひかりナースステーション・在宅看護専門看護師 佐藤直子先生より“根拠のない常識を変える。きらきら訪問ナース研究会の取り組み”のテーマでご講演頂きました。佐藤先生の訪問看護業界の常識と考えられている、「訪問看護は臨床3年以上の経験が必要である。」「新卒看護師が訪問看護師として働くことは難しい。」という通説に対して新卒看護師が訪問看護師として仕事をすることが難しいと考えられるその根拠は何か、何を達成すれば可能となるのかを、アンケート調査・インタビュー調査で明らかにしたこと、その調査結果より明らかになった現状「新卒看護師を採用したいが、育成力が足りない。」「教育機関は、学生に勧めたくても、信用できる事業所が無い、知らない。」等へのアプローチ、それにより流れが変わり、動き出し、変化が生まれた実体験を、エネルギーにご講演頂きました。佐藤先生の皆さまへ語りかけるエネルギーからも、明日から私も自分の職場で「通常に行われているけれど、気になるあの現象に対して何か行ってみよう。少し頑張ってみようか。」といった思いを抱くことができたのではないのでしょうか。参加者からは、「イノベーションを起こす具体的な方法が提示されており、実践に行かせると思った。」「実践を提示して頂き、自分の取り組みでどうすればいいのかヒントを得られた。」と皆さまの明日の看護に繋がる講演であったことがわかりました。

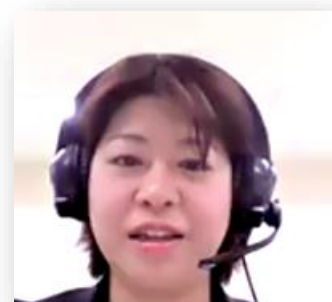

(次ページへ続く)



聖路加看護学会高度実践看護開発検討委員会主催講演会  
高度実践看護師が生み出すイノベーション

根拠のない常識を変える。  
きらきら訪問ナース研究会の取り組み

日時：2020年11月29日13:00  
於：オンライン  
在宅看護CNS.DNP



講演後アンケートからいずれのご講演も「非常に満足」「かなり満足」で9割近くを占め、非常に満足度が高く、大変好評を頂きました。オンライン開催についても「オンラインだと場所を選ばず受講できるのでとても良い。」「遠方でも参加できてよかった。」「オンラインなので、画面が見やすいといった効果を感じた。」など、満足度が高かったことがわかりました。

2020年は、世界中誰も予想をしなかった様相の一年でした。行動が制限され生活様式が大きく変化しました。その変化を受け入れつつ、どのようにしたら安全と安心が担保されるのか、今まさに私たちは行動・生活様式のイノベーションの真ただ中であると思います。このオンライン講演会もコロナ渦におけるイノベーションの一つだと、開催しつつ感じました。大事(大きな出来事)の際に、その出来事と同じくらい大きなイノベーションが生じるのかもしれませんが、実行委員皆、オンライン開催は初めてのことで、上手く開催できるか心配もしましたが、力を合わせ無事に開催できました。オンライン開催により、遠方の方にもご参加いただけ、学習の機会を提供できるといったイノベーションの成果も委員みな実感いたしました。今後も引き続き、皆さまの明日からの臨床に繋がる企画を検討していきたいと思っております。

まだまだ大変な様相が続くことが予想されますが、ご参加の皆さま、ご拝読のみなさまのご健康とご安全、ご安寧を委員一同願っております。

(担当委員:青木 悠、猪飼 やす子、佐藤 直子、矢ヶ崎 香、野末 聖香)

聖徳加看護学会 高度実践看護開発検討委員会主催

< オンライン講演会 >  
**高度実践看護師が生み出す  
イノベーション**

日時: 2020年11月29日(日) 13:00~15:00  
場所: オンライン開催(参加費: 会員・非会員とも無料)  
講演会内容:  
13:00~13:05 挨拶  
13:05~13:50 講演① 吉田 千文先生  
(聖徳加国際大学・名誉教授)  
「看護におけるイノベーションとは」  
13:50~14:35 講演② 佐藤 直子先生  
(東京ひかりナースステーション・在宅看護専門看護師)  
「根拠のない常識を変える。  
きらきら訪問ナース研究会の取り組み」  
14:35~14:55 ディスカッション  
14:55~15:00 挨拶

< 問い合わせ先 > 聖徳加看護学会 高度実践看護開発検討委員会: apn-skn@sfc.keio.ac.jp



## ■聖路加看護学会看護実践科学研究助成基金 採択者報告

2018 年度報告

### 抗がん剤投与中の敏感な頭皮に適したケア方法の確立 —患者の立場からみた頭皮に優しい医療用ウィッグに求める条件とは

玉井奈緒(東京大学大学院医学系研究科社会連携講座イメージング看護学)

2018 年度に看護実践科学研究助成をいただき、「抗がん剤投与中の敏感な頭皮に適したケア方法の確立—患者の立場からみた頭皮に優しい医療用ウィッグに求める条件とは」に関する研究を行いました。

抗がん剤治療中の患者は脱毛により、ボディイメージや自尊心の低下を生じるだけでなく、身体的な影響として頭皮の痒みや発赤、発疹に悩まされています。そのような敏感な頭皮を有する患者が快適な療養生活を送るためには、脱毛中に使用する医療用ウィッグが重要なカギとなります。2015 年に医療用ウィッグに関する日本産業規格(JIS)が制定されました。これにより患者が脱毛中に安心して使用できるよう、医療用ウィッグの性能基準が明確にされるなど、世間の医療用ウィッグへの関心も高まっています。患者のより快適な治療生活の支援を目指し、本研究では、医療用ウィッグの使用時に感じたことや問題点を明らかにすることとしました。

対象者は、早期乳がんがんで化学療法を受けた患者としました。本研究では、先行研究(脱毛頭皮の生理機能の評価)で収集した患者の記録と医療用ウィッグに関する自由記載アンケートおよび新たに追加したインタビューデータを使用し、テキストマイニングの手法(WordMiner®; 富士通エフ・アイ・ピー・システムズ, 東京, 日本)を用いて分析しました。

解析対象者となったのは 51 名でした。平均年齢は 50±11 歳であり、治療中に全員が医療用ウィッグを使用していました。アンケートにおけるキーワード抽出では、脱毛のどの時期においても共通していた問題点は、「暑い」「汗」「かゆみ」であり、各時期においては、「ずれる」「ゆるい」「浮く」「締め付け」「くいこむ」「蒸れる」「べたつく」「ぱさぱさ」という用語が抽出されました。インタビューにおいては、2 次解析で抽出されたキーワード以外に、「毛髪がきれいすぎる」「もみあげ部分の台紙の硬さ」「髪を耳にかけられない」「髪を結べない苦痛」「におい」といった具体的な問題が新たに挙げられました。

研究の結果から、患者は医療用ウィッグ使用中に、常にウィッグの暑さや汗、それに伴う蒸れの問題が生じていることが明らかとなりました。治療中はホルモンバランスの変化などにより、ホットフラッシュが生じやすいことから、季節を問わず暑さへの対処方法を検討する必要性、さらには汗やにおいを吸収可能な内側素材の改善、変化する髪の量に対応しつつ頭部に適度な密着感がある構造、結んでも違和感のない構造についても改善の余地があるといえました。日常生活における医療用ウィッグの使用法の工夫や、ウィッグメーカーとの産学連携により、患者の快適な療養生活への更なる支援の必要性が考えられました。

研究へのご支援を賜りましたおかげで、脱毛中の患者を支援するための新たな知見を得ることができました。心より御礼申し上げます。



ジョイント・クライシスプランの支援を通じた統合失調症患者と  
専門職との相互作用のプロセスを明らかにする研究

海老原樹恵（前聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程）

本研究は Joint Crisis Plan(以下、JCP)における専門職と統合失調症患者との援助的相互作用のプロセスを明らかにし、支援モデルを構築することでした。

JCP とは、統合失調症患者があらかじめ希望した治療や支援を計画し記しておく文書を指し、症状の再燃等によって危機的状況に陥ってもそれらを受けることができるものです。当事者と専門職が協働で作成する形式です。各国では、当事者の地域生活と社会復帰を支えるためのサービスモデルに組み込まれているものの、本邦ではあまり普及していません。

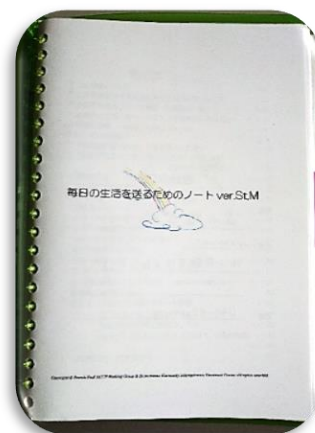
そこで、本研究では、精神科病棟、精神科訪問看護ステーションほか、多種の支援施設において、JCP の活用状況、JCP を通じた当事者と専門職との援助関係を検討するために、看護職、精神保健福祉士等の専門職にインタビューを行い、個別の事例検討をもとに、実践活用できる支援モデルの構築を目指しました。JCP を活用し地域生活を継続している当事者は、主に、社会的入院の長期化や自傷他害経験者などハイリスクで地域生活が困難されてきた方々でした。結果では、こうした当事者と専門職との JCP の協働を通じた関わりは、「共有の言葉」を創るプロセスで、当事者と目標を共有し、自律性や能動性を引き出すことで、病気と付き合い、リスクを克服し、自分らしい生活の再構築を促進していました。さらにそうした関わりは、多職種連携を促進し、施設のルティーンケアや精神風土の再構築、専門職自身のケア観の成熟をもたらしました。

JCP は、一冊の小さな『手帳』です。当事者と専門職とが日々の病棟生活や治療プログラムで、またつらい時にこの『手帳』を開き、思い、症状、薬のこと、家族のこと、外出の折おりに対処を見出し、文字にして落とし込まれます。『手帳』は多職種・多施設の手から手へと渡され、当事者の意向、強み、必要な支援が共有されていきます。

修正版グラウンデッドセオリー・アプローチで捉えると、こうした二者間の相互作用は、相手の今ある姿を捉える視座の転換と、同時に相手の反応を引き出す自分自身の行為への省察を経た関わりのプロセスであり、相互に絶え間なく繰り返されます。この土台は、同じ時代に同じ社会に生きる人間同士の現実時間性と親しみに通じる対等性の共有でした。

当事者は時々、『手帳』を読み返し、自分らしく地域生活を送っていること、また専門職からは「温かいカンファレンスができるようになった」とも聞きます。今後、気分障害や PTSD、発達障害の子ども達など、さらに多様な実践応用への可能性を感じています。

この度は、聖路加看護学会看護実践科学研究助成を賜り、多くの方のお力をお借りし研究遂行できました。貴重な実践体験をお聞かせくださった専門職の方がた、また分析のご指導をくださった先生方と研究室の方がた、本学会の方がたに深く感謝申し上げます。



『手帳』例  
【毎日の生活をおくるためのノート ver.St.M】  
聖マリアンナ医科大学 統合失調症治療センター編





# 委員会からのお知らせ

## ■第 25 回聖路加看護学会学術大会より

第 25 回学術大会は、「すべての人の発達に関わる看護—そのひとらしい豊かな経験を支える—」をテーマに、2 月 20 日より 3 月 5 日まで WEB 配信により開催します。

教育講演「アタッチメントの生涯における機能—研究的視点から」、特別講演「どんな人もそのひとらしくやりたいことを—社会福祉法人むそうの実践から—」、シンポジウム「豊かに生きるための意思決定支援」はじめ、共催セミナー(佐藤製薬)、ミニ講座(4 題)の他、聖路加国際大学 WHO プライマリーケア看護開発協力センター30 周年記念動画など盛りだくさんです。また、一般演題、卒業研究では 40 演題が発表されます。シンポジウム、一般演題は、会期中なら質問や感想をお送りすることもできます(発表者からの返信は任意になります)。オンデマンドですので、すべてのプログラムにアクセスできるのも WEB 配信ならではのメリットです。

2021 年 2 月 28 日まで参加申し込みが可能です(ID/PW の受信は 1・2 日かかります)。是非ご参加ください。詳細は、学術大会 HP をご覧ください( <https://slnr25.net/> )。

お問い合わせは、第 25 回聖路加看護学会学術大会事務局 2020slnr25@slcn.ac.jp へお願いいたします。

(第 25 回学術大会長 平林優子)

第25回 聖路加看護学会学術大会

すべてのひとの  
発達に関わる看護  
—そのひとらしい  
豊かな経験を支える—

WEB開催  
になりました

開催日: 2021.2.20sat. 配信 2021.2.20-3.5  
大会長 平林優子 (信州大学学術研究院保健学系)

- 教育講演 「アタッチメントの生涯における機能—研究的視点から」  
久保田まり (東洋英和女学院大学大学院 研究科長)
- 特別講演 「どんな人もそのひとらしくやりたいことを」  
戸枝陽基 (社会福祉法人むそう理事長)
- シンポジウム「豊かに生きるための意思決定支援」  
遺伝看護の支援 御手洗幸子 (NTT東日本関東病院 遺伝看護専門看護師)  
移行支援 落合亮太 (横浜市立大学 がん・先端成人看護学准教授)  
がん看護の支援 高橋美賀子 (聖路加国際病院 がん看護専門看護師)
- 共催セミナー(佐藤製薬)「痛みの少ない針穿刺をめざして」  
吉田奏 (聖路加国際病院 周麻酔期看護師)
- ミニ講座  
・システムティックレビューを学ぼう 大田えりか (聖路加国際大学大学院 教授)  
・認知症とともに生きる人を支える 滝口美重 (聖路加国際病院 訪問看護認定看護師)  
・あなたに最適なマスク 大西一成 (聖路加国際大学大学院公衆衛生研究科 准教授)  
・COVID-19に向き合う感染対策 坂本史衣 (聖路加国際病院 感染管理室マネージャー)
- 特別企画 聖路加国際大学WHOプライマリーヘルスケア看護開発協力センター30周年記念

登録期間 演題登録: 2020年10月15日~12月21日 終了しました。  
参加登録: 2021年2月28日(日) まで (延長しました)

[第25回聖路加看護学会学術大会事務局]  
聖路加看護学会事務局 小児看護学 e-mail: 2020slnr25@slcn.ac.jp

### ■応募資格

- 筆頭演者は「聖路加看護学会」の会員に限ります。  
未入会の筆頭演者は、あらかじめ入会手続きをお願いします。
- 非会員の共同発表者は、発表登録料5000円をお支払いください。
- 筆頭発表者は必ず参加登録をお願いします。
- 共同発表者の参加登録は自由です

### ■一般演題発表

- 音声あり PPTスライド (mp4形式) 8分以内
- 音声なし PPTスライド PDF形式 8枚 (タイトル、COIスライド除)

### ■演題登録

- 学術大会HP演題登録フォーマットに記載し、抄録をお送りください。
- 12月21日(月) 締め切り。 **締め切りました。**
- 筆頭発表者は12月28日(月) までに参加費の振り込みをお願いします。

### ■参加登録

- 事前に学術大会HP「事前参加登録」から申込みをしてください
- 参加登録後、郵便振込で参加費の払い込みをお願いします。  
払込用紙はおひとり様1枚とし①住所、②氏名、③所属、④会員番号  
を記入してください。
- 参加登録、参加費振り込みが確認された方に、本学術大会のオンライン視聴ができるIDと、パスワードをお送りします。  
**2021年1月29日(金) までに参加費を振り込んでいただくと、  
開催2週間前までにID/PWを送付します。  
2月28日(日) まで延長して参加登録を受け付けます。  
ID/PW発送は2日後(土日はさむと翌週)となります。**

### 学術大会参加費

学 会 員	¥ 5,000
非 会 員	¥ 6,000
学 生	¥ 3,000 (大学生・大学院生)



学術大会HP

### <振込先>

- ゆうちょ銀行からお振込み  
口座記号番号: 00570-4-53768  
口座名称: ダイニッシュウゴカイセイセルカカンゴカイガクジュツタイカイ
- 他銀行からお振込み  
振込先: ゆうちょ銀行 ○五九店 当座 0053768

\* 聖路加看護学会の入会金・年会費の振込等は学会ウェブサイトをご覧ください  
\* 会員番号照会は、聖路加看護学会事務局 (slnr@slcn.ac.jp) まで  
メールをお願いします



## ■学術交流委員会より

学術交流委員会では、看護の現場で活躍する皆様が学び合い、対話できる交流会を毎年企画しています。詳細が決まりましたのでお知らせいたします。

今年度はWEB開催で、「コロナ禍で患者・家族のヘルスリテラシーを高める」というテーマで行います。例年とは異なる状況で看護にあたっていると思います。今、改めて患者や家族のヘルスリテラシーについて考えてみませんか。

日時は、2021年2月28日(日)13時～15時で、ZOOMにて開催いたします。

講師の中山和弘先生に「ヘルスリテラシーとは」について話題提供をいただいたのちに、参加者でグループトークを行います。事前登録制ですので、詳細は学会ホームページをご覧ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(担当理事 吉田俊子)

聖路加看護学会学術交流委員会主催 学術交流会  
コロナ禍で患者・家族のヘルスリテラシーを高める

**2021. 2. 28. SUN**  
time 13:00～15:00 at ZOOMウェビナー

コロナ禍で発熱者の対応に追われたり、ご家族の面会が制限されたり、例年とは異なる状況で看護にあたっていると思います。ヘルスリテラシーとは、「健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力」です。今、改めて患者さまやご家族のヘルスリテラシーを高めることについて考えてみませんか。

**スケジュール**

13:00	開会
13:10	話題提供 「ヘルスリテラシーとは」 中山和弘先生(聖路加国際大学教授)
13:30	グループトーク
14:10	発表・意見交換
14:40	講師からのコメント
15:00	閉会

**参加無料** (会員・非会員とも)

**ウェビナー参加方法**  
パソコンまたはタブレットからどなたもご参加いただけます。事前にURLを送付いたします。当日は、URLをクリックしてお名前とメールアドレスを入力し、開始時間までにご参加ください。詳細はお申込み完了後、メールでお知らせいたします。

**グループトークについて**  
ZOOMのブレイクアウトルームという機能を利用します。ご参加の皆様は、割り当てられたブレイクアウトルームに入り、コロナ禍で患者さまやご家族のヘルスリテラシーを高めるためにどのように対応しているか、日頃の困りごとや実践を共有します。

**参加申込** が必要です

お申し込みはこちら <https://forms.gle/9TKMinByi1tAuWa56>  
受付期間：12月20日(日)～2月24日(水)まで  
お問い合わせはこちら  
聖路加看護学会学術交流委員会 [slnr-gk@slcn.ac.jp](mailto:slnr-gk@slcn.ac.jp)  
※お願い※ お申し込み時のメールアドレスはZOOMご参加時に使用するメールアドレスをご登録ください。事前にURLを送付しますので、[slnr-gk@slcn.ac.jp](mailto:slnr-gk@slcn.ac.jp)からのメールを受信できるように設定をご確認ください。メールが届かない場合は、お問い合わせの前に迷惑メールフォルダをご確認ください。

聖路加看護学会学術交流委員会 | 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内  
本学会・学術交流委員会では、看護の現場で活躍する方々が学び合い、対話できる交流会を毎年企画しています。





## ■学会誌編集委員会より

聖路加看護学会誌は、2021年7月発刊号(25巻1号)より紙媒体は廃止となり、電子化へ移行いたします。なお、25巻2号は2022年1月に発刊予定ですので、投稿予定の会員の皆様には5月末までに投稿をおまちしております。今後の発刊予定の詳細は、HPにてご案内させていただきます。

(担当理事 有森直子)

## ■会計からのお知らせ

今年度(2020年)の会費納入がお済みでない方は、是非今年度中に上記指定口座にお振込みをお願いいたします。2021年2月1日現在で、2020年度会費の未納入の方は176名です。本学会は皆様の会費により活動を行っております。WEB配信等でも学会事業は活発に行われています。会費納入へのご理解・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

振込先:郵便振替口座 口座番号:00100-8-670371 加入者名:一般社団法人 聖路加看護学会
----------------------------------------------------------

(担当理事 平林優子、小林真朝)

## ■庶務からのお知らせ

2021年1月末現在の本学会の会員数は606名です。メールリストを使い会員の皆様へは随時ご案内を配信しております。メールが届いていらない方は学会事務局までご連絡をください。また新年度より、勤務先(所属)、住所、メールアドレスなどがご変更となる方も、学会事務局までご連絡をお願いいたします。会員の皆様には引き続きのご協力をお願いいたします。学会事務局:[slnr@slcn.ac.jp](mailto:slnr@slcn.ac.jp)

(担当理事 森田誠子、大久保暢子、西垣佳織)

## ■編集後記

今回は、高度実践看護開発検討委員会によるオンライン講演会や研究助成基金採択者の研究内容をご紹介します。活動自粛をせざる得ない状況ですが、みなさまの教育研究活動の継続を願ってやみません。2月20日~3月5日は第25回聖路加看護学会学術集会在、2月28日は学術交流会が、ともにwebにて開催されます。ぜひご参加ください。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は当分続きそうです。どうぞみなさまご自愛ください。

(広報委員会 大橋久美子、佐居由美、瀬戸山陽子、竹森志穂、松尾尚美)

ニュースレター発行や様々な情報をメールリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 [slnr@slcn.ac.jp](mailto:slnr@slcn.ac.jp) までご連絡ください

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.52

- ▶ 発行:2021年2月15日
- ▶ 編集:広報委員会(佐居由美 大橋久美子 瀬戸山陽子 竹森志穂 松尾尚美)
- ▶ 連絡先:〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内



[学会ホームページ] <http://slnr.umin.jp/>

